

区分	マテリアリティ	取り組み	主なKPI（重要業績評価指標）	目標年	2024年度実績
E 気候変動への対策	CO <sub>2</sub> 排出量の削減	対2013年度比46%削減（2050年ネットゼロ）	2030/2050	・対2013年度比12.0%増加（羽田エリア内における当社グループのCO <sub>2</sub> 排出量※1）	
		ターミナル増築時のZEB Oriented取得（T1北側サテライト）	2025	・2024年4月にZEB Oriented認証取得済み	
E 限りある資源の有効活用	環境に配慮した素材・商材の導入	直営物販店舗（自主編集）の全店においてエシカル商品※2を展開する	2025	・直営店舗全店（自主編集）34店舗中24店舗で取り扱い	
		ターミナル増築時の木造木質化（T1北側サテライト）	2025	・T1北側サテライト工事進捗31%、2026年度供用開始予定	
	廃棄物の抑制・資源循環	ターミナルから出る廃棄物のリサイクル率を70%にする	2030	・リサイクル率39.6%	
S 安心・快適で先進的な空港づくり	ターミナル機能の強化	SKYTRAX評価※3「5スターエアポート」継続（ターミナル増築、旅客動線の改善、サイネージの拡充、商業施設の多様化など）	毎年継続	・11年連続世界最高評価「5スターエアポート」を受賞	
		SKYTRAX評価「クリンヌスエアポート No.1」継続	毎年継続	・10年連続「クリンヌスエアポートNo.1」を受賞	
	安全・安心の確保	防災訓練等の継続実施（150回/年実施・3,000人参加延人数/年）	毎年継続	・246回/年実施・3,728人参加延人数/年	
		SKYTRAX評価「ベストPRM※4 No.1」継続	毎年継続	・7年連続「ベストPRM No.1」を受賞	
	ユニバーサルデザインの推進	ターミナル内移動電動カート・自動運転車椅子の全ターミナルへの導入完了	2025	・ターミナル内移動電動カート：T2、T3導入済み ・自動運転車椅子WHILL：全ターミナル導入済み	
		デジタル技術の活用	2025	・5カテゴリへの導入完了（②拾得物オンライン問合せシステム「落とし物クラウドfind」の導入④警備ロボット2台導入）	
	地域・地方への貢献	羽田空港という「場」を活用した地方・特産品の常設プロモーション店舗及びイベントスペースでのプロモーション展開を毎年24回以上実施	毎年継続	・地域連携PRコーナーにおいて、2024年度34回（売上実績：53,000千円）の地域連携PRを実施	
		羽田空港で培ったノウハウや導入製品（ロボット等）を、国内外空港などの施設へ年間50件提供	2025	・成約件数37件（Radi-Cool、ロボット、コンサルティング業務など）	
G 人財育成	地方との交流創出	地元大田区等の小中学生をはじめとした空港見学・職業体験プログラムの参加人数1,000人以上継続	毎年継続	・今年度203件実施/累計約10,390名参加	
		研究開発「terminal.0 HANEDA」プロジェクトにおける地域連携について、3領域（①地域向けイベント開催、②地元企業参加、③地域周辺ツアー開催）で実施	毎年継続	・3領域すべてで実施（①羽田空港の歴史展実施、②地元企業参加、③大田区町工場ツアー実施）	
	人財のプロ集団化	多様なスキルを持った人財の積極的な採用・育成	実績管理	・新卒採用21名、中途採用入社者4名 ・タレントマネジメントシステムの導入	
		新たな事業の創造・業務改善につながる産業連携、産学連携、外部出向の実施	実績管理	・産学連携：7名（累計参加者数31名） ・外部出向者数：24名、新規外部出向先：2件	
	従業員エンゲージメント向上	「自ら考え挑戦する人財」を促進するインナーブランディング活動（プラスワンプロモーション）の全グループ役職員への浸透	2025	・従業員エンゲージメントサーベイの実施 ・エンゲージメント指数：82.5、新たな挑戦に関する指数：74.1	
	DEIの推進及び人権の尊重	男性の育児休業取得率100%、女性管理職比率40%※単体	2027	・男性の育児休業取得率：88.9%、女性管理職比率：37.0%	
		障がい者雇用率6.6%※単体	2025	・障がい者雇用率：5.1%	
	人権デューデリジェンスの実施	人権リスク調査において特定した課題への対策の実施	2025	・特定した課題への対策を実施し、人権デューデリジェンスへの一巡対応が完了、詳細開示済み※5	
G 公正な事業活動の推進	コンプライアンスの徹底	企業活動における不適切な行動（重大な不正行為違反）発生件数ゼロ	毎年継続	・企業活動における不適切な行動（重大な不正行為違反）発生件数：不適切な取引事案1件※6	
		サステナブル調達ガイドライン適合調査の回答率及び適合率の継続的改善	2030	・適合調査の実施：回答率39%、適合率67%	
	有識者との対話 年2回		毎年継続	・有識者との対話実績：2回	
	リスク管理の強化	リスク管理体制の強化	毎年継続	・リスク管理委員会を2回開催、PDCA管理を実施	
		サイバーセキュリティ対策の強化	毎年継続	・サイバーセキュリティ対策不備によるターミナルビル運用への重大な影響発生件数ゼロ	

※1 当社グループ保有の空港内車両による排出を除く。

※2 エシカル商品の定義は、フードロス削減につながる商品、フェアトレード商品、リサイクル素材を使用した商品、認証ラベル・マークを取得している商品、地産地消を意識した商品、オーガニック商品、代替肉商品・代替ミルク商品等。

※3 SKYTRAX：1989年創立のイギリスに拠点を置く航空サービスリサーチ会社。世界の空港や航空会社の評価を行っており、評価の項目は多岐に渡る。「5スターエアポート」（2014年から11年連続受賞）、「クリンヌスエアポート」（2016年から10年連続1位）、「ベストPRM」（2019年から7年連続1位）、そのほかにも受賞歴あり。

※4 PRM：「Persons with Reduced Mobility」の略であり、高齢者、障がいのある方や怪我をされた方に配慮された施設の評価部門のこと。

※5 詳細開示（[https://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/files/sustainability/human\\_rights\\_Initiatives.pdf](https://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/files/sustainability/human_rights_Initiatives.pdf)）参照※6 調査報告書（<https://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/files/ir/000016148.pdf>）参照（調査結果公表：2025年5月9日）